



命の大切さ再確認「命の授業」



昨日、元中学校教員だった腰塚勇人さんを講師に、オンライン形式で3年生対象の「命の授業」が行われました。メディアでも紹介されていて、全国的にも有名な方のお話でしたので、生徒はもちろん職員も画面に釘付けになり、拝聴しました。

腰塚さんからは、スキー事故によって半身不随となりながらも奇跡の復活を遂げた自らの体験をもとに、命の大切が話されました。生徒達は、「命も人生も自分だけのものじゃない。」という腰塚さんの熱い言葉から、他者とつながり、自分の人生を精一杯生きることの大切さを感じていたようでした。生徒からは、感謝の気持ちを込めて盛大なエールを贈ることができました。

多感な時期である中学生には、とても有意義な講演会だったと思います。是非来年度以降も、町の事業として継続を望みます。

「心は人の痛みがわかるために使おう」 『5つの誓い』より

【教育実習生の紹介】



うちやま ゆうだい
内山 裕大さん
教科担当：英語
(平成27年度卒業生)

【中学校時代の思い出】

- ・毎日山ほど給食を食べていた。
- ・合唱をたくさんやった。

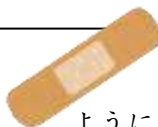
【後輩へ一言】

中学校の時の楽しかった事、頑張った事は意外と長く記憶に残ります。

是非いろいろな事を全力で楽しんで、全力で頑張ってください。

3週間、よろしくお願ひします。

【ちょっといい話】



銀河祭の翌日の話です。いつものように正門前で朝の挨拶運動をしていると小学1年生とその母親と思われる方が話しかけてきました。聞けば、前日の登校時、中学校前で転んで怪我をした娘を助けてくれた女子中学生がいたとのこと。持っていた絆創膏まで貼ってくれたそうで、お礼を言いたいとわざわざ来てくださったのでした。早速、先生方に知らせ、該当する生徒を調べてもらうと、いずれも3年生の、相原有那さん、川村雪菜さん、小笠原拓乃さんであることがわかりました。銀河祭当日で急いで移動している中で、小学生の異変に気付き、優しい対応をしてくれた北中生を誇りに思います。これからも、身近に困った人がいたら、進んで手を貸す北中生であってほしいと思います。